

## 本美濃紙 / 美濃和紙用具ミュージアムふくべ

美濃和紙は、その滑らかで染みのない外観が有名です。美濃和紙を作るには、まず塵取りという作業の中で靱皮繊維の中から不純物を取り除かなければなりません。繊維は編んだかごの中に入れられ、十分な自然光のもと、流水を使って手作業で選別されます。塵取り用のかごや、紙漉き用の竹簀が、後方に展示されています。

壁に展示されている竹簀（す）は、パルプのとりとした液体を流す紙づくりの重要な工程に用いられます。各竹簀は、竹を割り削って加工したものを約 3,000 本組み合わせて、絹糸で縛ったものです。網の部分は、桁（けた）と呼ばれる木製の型枠に固定されます。桁はヒノキでできており、繰り返し水に浸しても耐えることができます。

前方には、楮（こうぞ）の皮の繊維を柔らかく解すためのさまざまな用具や機械が並んでいます。手作業で繊維を解す際には、木槌や長い棒が用いられました。20 世紀初頭には、蒸気を使って長い刃を回転させて、繊維を解す機械が導入されました。本美濃紙を作る際には、木槌を使って手作業で靱皮繊維の分解が行われます。この際に使用される木槌の表面には菊模様が彫られており、繊維が木槌に付着してしまわないようなデザインになっています。